12月3日～9日は障害者週間

# 自立した生活を送るために

問障がい福祉課☎(235)4813

障がいのある方を取り巻く社会環境は、近年大きく変化しています。保護者の高齢化などの理由から、障がいのある方の将来を案じるご家族も少なくありません。障がいのある方が地域で暮らし続けていくためには、さまざまな支援が必要です。ここでは、〝障がいのある方の地域での暮らし〟をテーマに、自立支援の形のひとつ「グループホーム」を紹介します。

## グループホームとは

グループホーム(以下、ホーム)は障がいのある方が家庭的な雰囲気の中、自宅同様に地域で暮らす家のことを指します。自立に向けて共同生活を送る場でもあり、「障害者総合支援法」に基づく福祉サービスの一つです。ホームの形態は一戸建ての住宅から既存のアパートを改築したものなどさまざまで、定員は5～10人程度です。

現在、市内には10カ所のホームがあり、社会福祉法人やNPO法人が運営しています。

## 規則正しい生活の場

ホームには各自の部屋があり、食堂や風呂は共同で使用しています。入居者はホームを拠点に、日中はそれぞれの職場や通所施設などに出掛ける規則正しい生活を送っています。

## 世話人が「あと少し」をお手伝い

ホームには「世話人」と呼ばれるスタッフが滞在しています。ホームの入居者はできることは自分で行いますが、不十分な時や苦手なこともあります。そのような時は、世話人が必要に応じてアドバイスやサポートをしています。

## ずっと海老名で暮らしたい

障がいの有無にかかわらず、できることなら愛着のある場所でずっと暮らしたい、自分らしく生きていきたいと願う気持ちは皆同じです。

30を超える関係機関や団体で構成する「海老名市自立支援協議会」では、ネットワークをつくり、福祉サービスの向上を目指して活動を続けています。障がいのある方も、社会の一員としてずっと海老名で暮らしていけるよう、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

海老名市自立支援協議会の取り組みは、「地域活動支援センター結夢(ゆうむ)」のホームページからご覧いただけます。

http://www.hoshiyakai-yumu.com/jiritsu.htm

「生活ホームいこい」に暮らす入居者は現在5人。自治会活動や清掃活動への参加、近所の方からは野菜を分けてもらうこともあり、地域の方との関わりを大切にしながら生活しています。

## 入居者を見守るグループホーム世話人と保護者の声

### 生活ホームいこい

世話人 髙橋さん・林原さん

▲家庭的な雰囲気の中、笑顔で団らん

「いこい」は、平成14年に開設した一戸建てのグループホームです。私たち世話人は、入居者が通所施設から帰ってくる夕方から翌朝まで滞在し、生活面をサポートしています。「いこい」の入居者は、自分でできる身の回りのことは自分で行っています。中には、食事の支度を手伝ってくれる方もいるんですよ。現在の「いこい」の世話人は9人。子育てを終えた世代が多く、シフトを組んでそれぞれ自分の生活と世話人の仕事をやりくりしていますが、泊まりの業務が中心となるため、担い手が不足しているのが現状です。

入居者を支えていくためには、次の世話人を育てることが必要です。私たちは、入居者の皆さんがこの家で健康で楽しく過ごすための「見守り役」として、これからも世話人の輪をつないでいきたいと思っています。

▲髙橋さん(右)と林原さん(左)

### グループホームはなきりん

入居者の保護者 本澤さん

息子は、養護学校の卒業と同時に「はなきりん」に入居しました。現在は「はなきりん」を拠点に、一人で電車とバスを乗り継いで、片道1時間半の職場へ通っています。週に一度、自宅に戻ったときには、自発的に洗濯物を取り込んでくれるなど、「はなきりん」に入居したことで、息子の社会性や生活能力が成長したことを実感しています。

私たち両親がいなくなった後、息子はどうなってしまうのか不安がありました。今は、自立に向けた居場所ができたことで、心から安心しています。

▲「はなきりん」はアパートタイプのホーム

▲夕飯前のひとときを過ごす息子の秀幸さん(右)